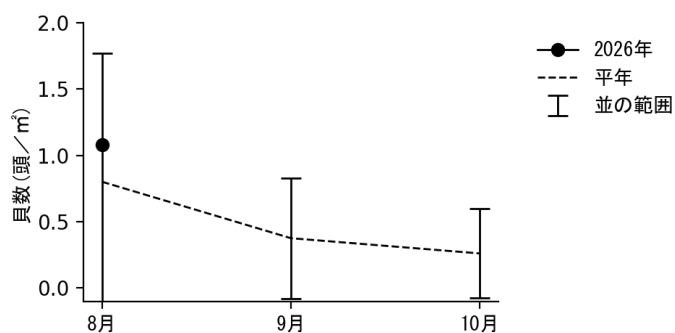


作物	水稻（2期）	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
調査結果	8 月の発生量（平年比） 並		
予報	8 月からの増減傾向 ↓		
	9 月の発生量（平年比） 並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

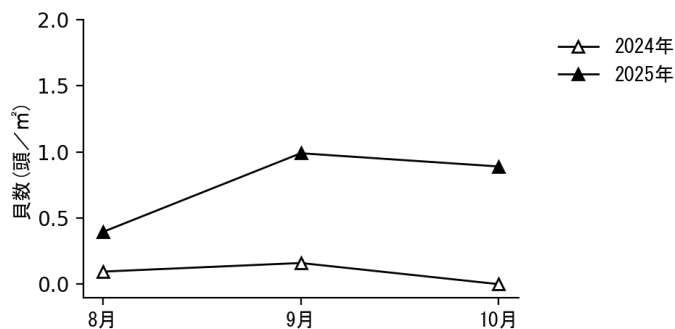
調査結果

貝数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率75.0%（平年：72.3%）

※一部ほ場で多発

防除のポイント

- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- ・取水口に侵入防止網（目合6～10mm程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
- ・貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。なお、捕殺時はゴム手袋を着用する。



卵塊

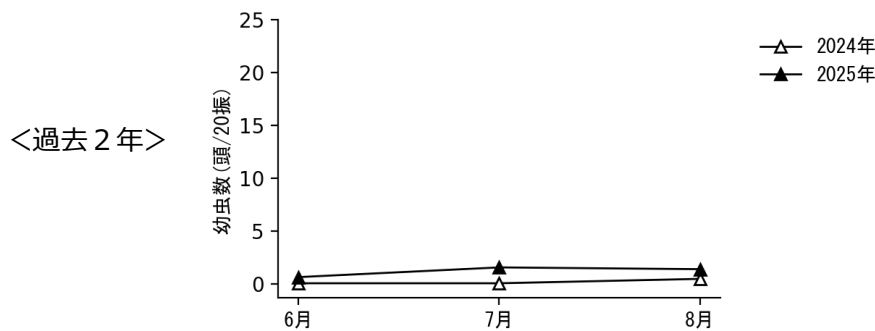
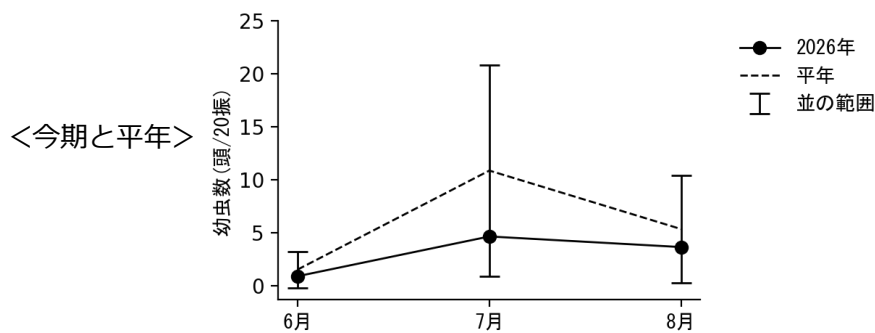


株元の稚貝

作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	バッタ類			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予報	8 月からの増減傾向	—		
	9 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

幼虫数の推移



- ・発生ほ場率58.3%（平年：65.7%）
- ・発生種：台湾ハネナガイナゴ、ヒゲマダライナゴ、台湾ツチイナゴ

防除のポイント

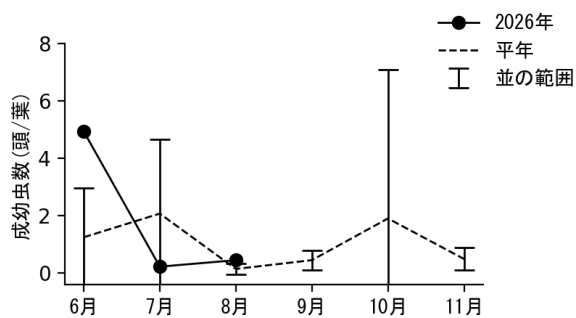
- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一齐防除を行うと効果的である。



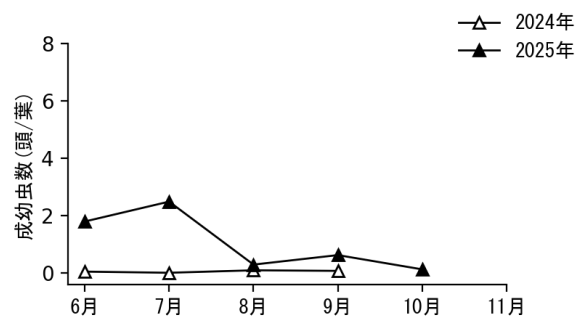
作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

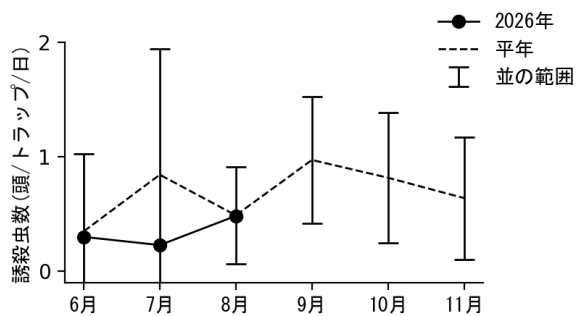
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



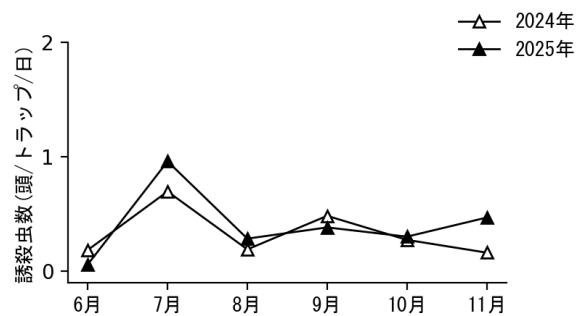
葉当たり成幼虫数の推移（過去2年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去2年）



・発生施設率100%（平年：40.0%）

※一部施設で多発

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

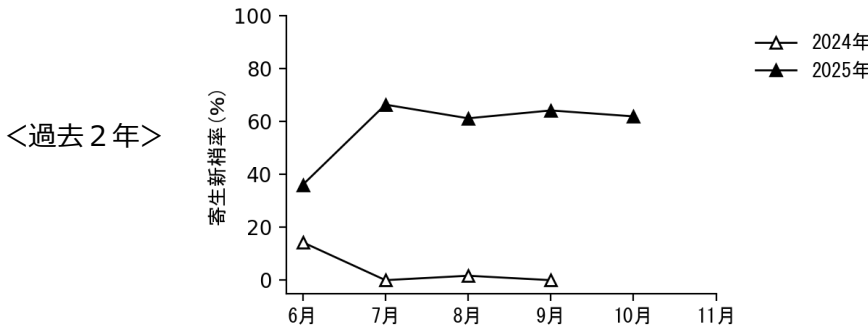
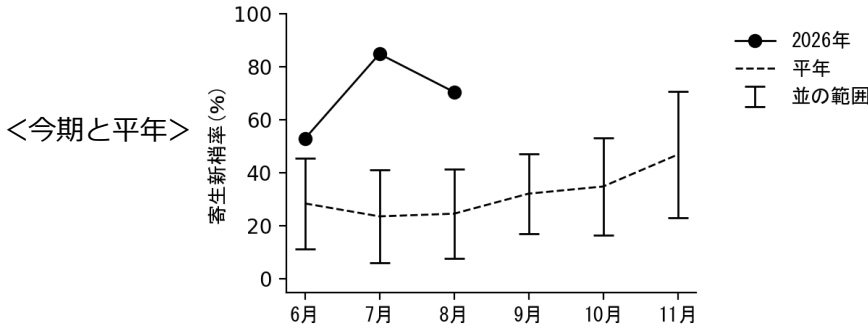


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	多		
予報	8 月からの増減傾向	↗		
	9 月の発生量（平年比）	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生施設率100%（平年：55.6%）

防除のポイント

・産卵から羽化まで約2週間と繁殖スピードが速いことから、新葉をよく観察し、早期発見・防除に努める。また高密度に寄生された葉は落葉が早く、幼虫の脱出痕から炭疽病等にも感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。

・高湿度条件で幼虫や蛹の生存率が高まることが知られているため、施設内の湿度管理に留意する。



幼虫



新葉の虫こぶ



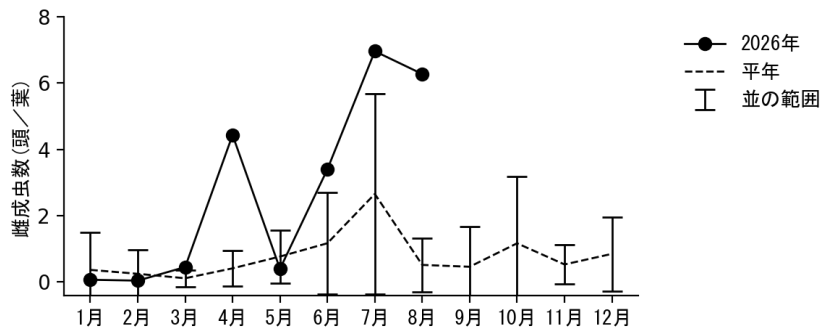
被害葉

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	多		
予報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

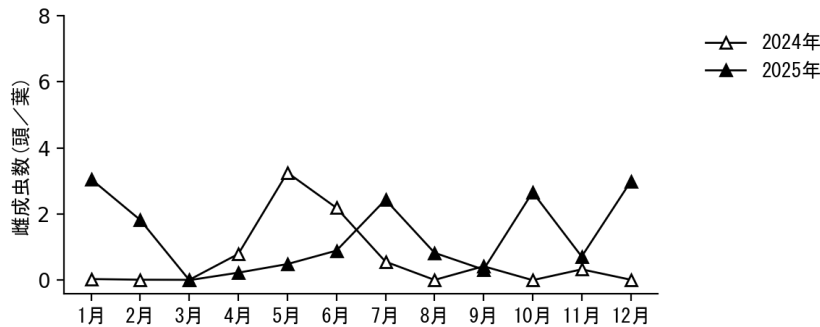
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：シュレイツメハダニ（50%）、マンゴーツメハダニ（50%）
- ・発生施設率80.0%（平年：38.0%）

防除のポイント

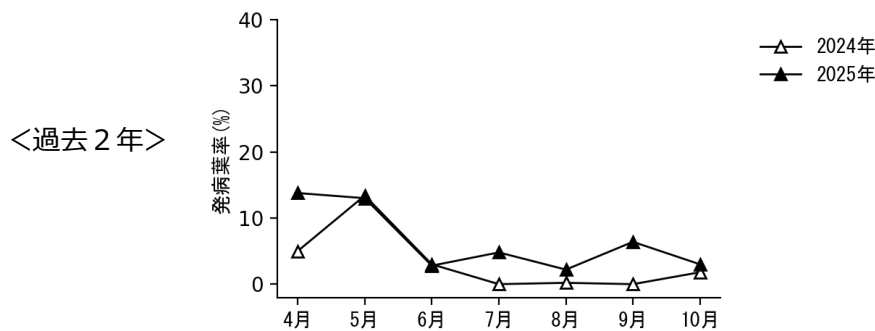
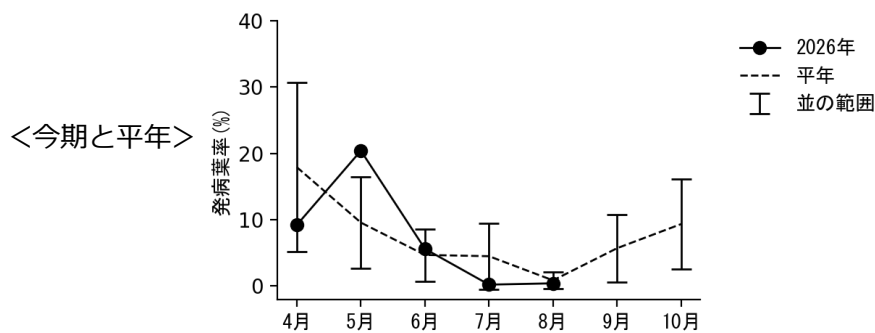
- ・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予 報	8 月からの増減傾向	↗		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率40.0%（平年：17.8%）

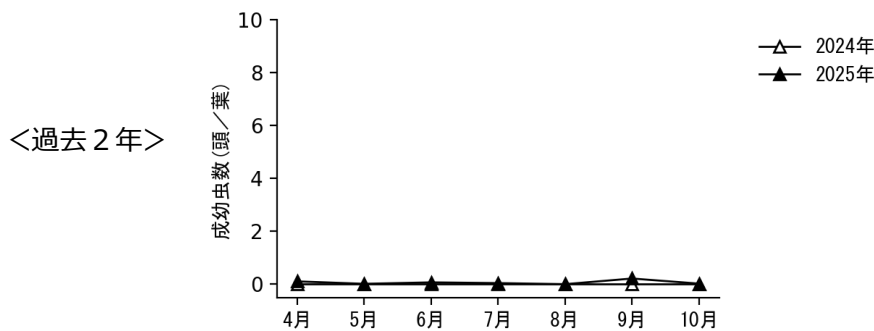
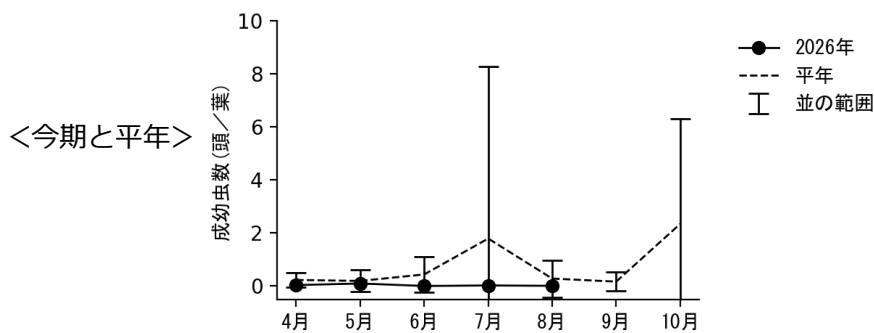
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	② アブラムシ類			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：24.4%）

防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。



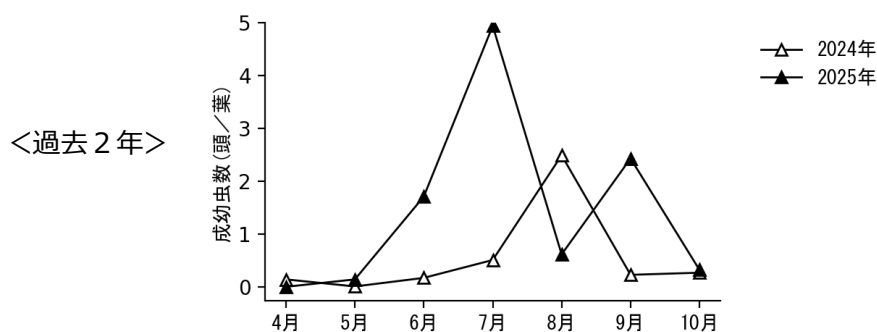
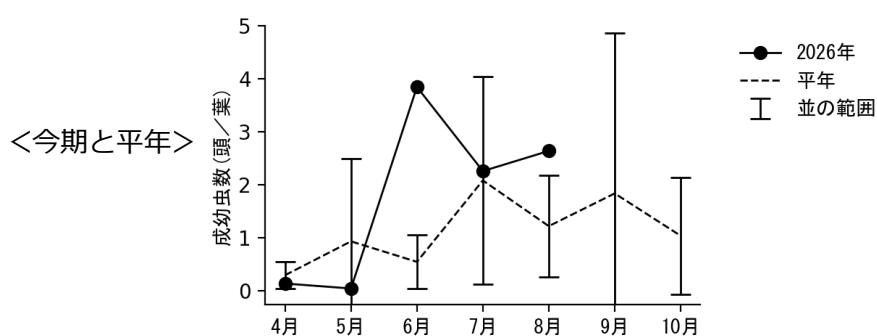
花蕾に群生する成幼虫

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	



調査結果

成幼虫数の推移

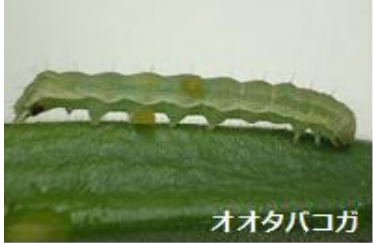


・発生ほ場率80.0%（平年：93.3%）

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

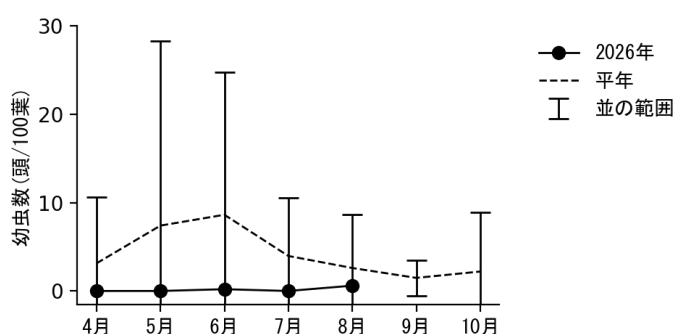


作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫	 オオタバコガ	
調査結果	8 月の発生量（平年比） 並		
予報	8 月からの増減傾向 ↗ 9 月の発生量（平年比） 並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

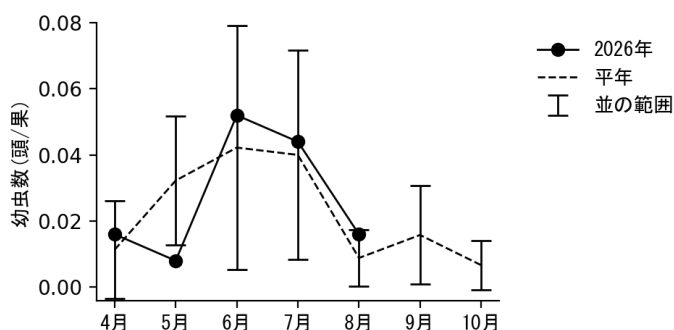
調査結果

幼虫数の推移

<葉>



<果実>



- ・発生種 果実：オオタバコガ 葉：フタトガリコヤガ、ワタアカキリバ
- ・発生ほ場率 果実：60%（平年：51.3%）、葉：20.0%（平年：15.6%）

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。また同系統薬剤の連用を避ける。
- ・オオタバコガは齢期が進むほど薬剤感受性が低下し、かつ中齢幼虫以降は蕾や果実内に潜行するためできるだけ食入前の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

